

【第一部 創生編】

《東北地方における課題と目指すべき15の目標》

1 東北地方に暮らす人々の「心の豊かさ」を継承できる自立社会の実現
⇒『家族の絆』を支える**高規格道路網の整備**

2 東北地方の基幹産業である農林水産業の競争力強化
⇒農林水産業の**6次産業化を加速するための交通ネットワークの維持・整備及び拠点港湾の再整備**



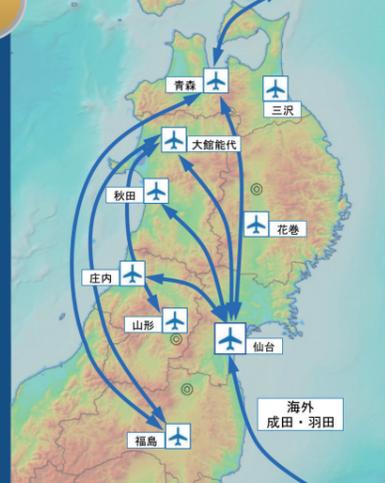
海外輸出へ向けた拠点港湾の例

3 東北地方における「ものづくり」産業基盤の拡大
⇒東北地方の地理的好条件を生かした「ものづくり」産業誘致のための良質な**物流ネットワークの整備**



ロシア・東アジア 北米等

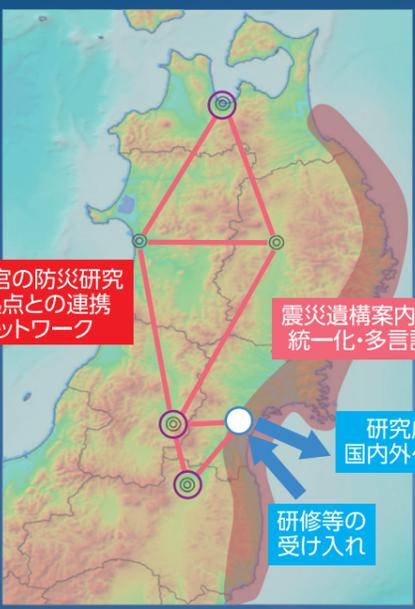
4 東北地方が一体となった観光インバウンドの拡大
⇒東北地方6県の連携による「**東北地方版ゴールデンルート**」の創出
←仙台を中心とした東北の空港のネットワーク化



海外 成田・羽田

5 東北地方における「人口流出抑制ダム」としての仙台市の拠点性の強化
⇒仙台市の**都市基盤整備の強化及びゲートウェイ機能の強化**

6 防災先進社会の構築
⇒「**みちのく防災・減災展示館ネットワーク**」の推進



産学官の防災研究の拠点との連携ネットワーク
震災遺構案内等の統一化・多言語化
研究成果の国内外への発信
研修等の受け入れ

防災・減災ネットワーク

7 中山間地域の孤立化対策
⇒迅速な救助等をなし得るための**インフラ（交通網や空輸、通信基盤）およびソフト対策の強化**

8 人工知能（AI）等を活用したインフラマネジメント技術
⇒AI技術の活用による**インフラの長寿命化対策および防災・減災対策の効率化の推進**

9 雪害の克服
⇒豪雪地帯における**安全な生活環境の整備**



特別豪雪地帯
豪雪地帯
特別豪雪地帯と豪雪地帯

東北は全国的にみると、我が国の経済産業をリードしてきた太平洋ベルト地帯をはじめとする関東～九州の西日本に対し、言わば我が国の食料基地、労働人口供給基地、エネルギー供給基地としてバックアップ的な役割を担ってきたところである。また近年では未曾有の大震災を経験し、その復旧復興を通じて図らずも防災機能は大きく向上し、全国的に見ても震災に対する安全安心は大きな高まりを見せており、他地域の企業や工場等がリスク分散を考える上では優位性のある地域であると考えられる。今後の東北を考える上では、歴史の中で培われてきたこれらの特性を「東北の強み」として活かし、東北における暮らしや営みをベースとした自立的発展を目指すべきである。

10 外国人旅行者等に対する防災・減災事業
⇒**外国人旅行者等を災害から守ることによる観光立国に向けた貢献**

11 自然公園の活用による地域振興
⇒**自然公園の情報発信と利便性向上による来訪者の増加 国立公園の利用者数の推移**（平成25年の利用者数1万人以上の国立公園のみ記載）

	国立公園名	平成25年利用者数	<参考>平成24年利用者数
1	富士箱根伊豆	100.7万人	83.8万人
2	支笏洞爺	31.7万人	24.0万人
3	中部山岳	31.4万人	13.4万人
4	阿蘇くじゅう	27.8万人	25.9万人
5	日光	13.9万人	10.4万人
6	上信越高原	10.8万人	10.7万人
7	瀬戸内海	7.9万人	6.3万人
8	大雪山	5.6万人	6.4万人
9	霧島錦江湾	5.3万人	2.4万人
10	阿寒	5.1万人	4.6万人

12 放射性物質の適正管理
⇒放射性物質から**地域の安全・安心を守るネットワークの形成**



大間原子力発電所
リサイクル燃料備蓄センター
東通原子力発電所（東京電力）
東通原子力発電所（東北電力）
日本原燃原子燃料サイクル施設
青森
秋田
盛岡
山形
仙台
福島
福島第2原子力発電所
放射性物質関連施設

13 新規事業（イノベーション）の展開
⇒イノベーションで地域貢献を果たす**多機能ネットワークの形成**



ITER BA（国際熱核融合実験炉）計画
青森
秋田
盛岡
山形
仙台
福島
福島イノベーションコースト構想
東北放射光施設計画（Slit-J）
ILC超伝導加速空洞試験施設（国際リニアコライダー構想）
海底資源開発

東北エリアでの主な大規模イノベーション事業

14 河川整備のさらなる推進と既設ダム等の利活用
⇒**河川整備率の向上とダム事業の推進を通じた治水安全度の向上**

15 火山災害、土砂災害への備え
⇒**土砂災害対策率の向上と火山対策の推進**